

P. D. Dunn (1927-2014)

『Appropriate Technology—Technology with a Human Face—』1979 年刊

著者は、英国のレディング大学の理工学系の教授で、シュマッハーらの設立した中間技術開発グループ (ITDG, Intermediate Technology Development Group、現在のプラクティカルアクション) の創設時からの支援者であり、適正技術の実践者であった。

本書では、開発途上国の経済と貧困の状況とそれにかかわる要因、問題解決のための展望を概説した上で、望ましい開発のための具体的な適正技術の例をあげて、適正技術を体系的・包括的に論じようとしている。適正技術のめざすものとして以下の5点が挙げられている。

- ① 雇用の創出
- ② 地域市場向けの製品の生産
- ③ 外部からもたらされる製品に対して、質とコストで競合できる代替的製品の地域内生産
- ④ 地域の労働力・材料・金融資源の利用
- ⑤ 医療、水、衛生、居住、道路、教育などのコミュニティサービスの提供

具体例としては、簡素な農具・農業機械、雨水タンク、手押しポンプ、バイオガス、風車、ソーラークッカー、卵の包装容器、医療器具など、幅広い分野の技術があげられている。そこでは、地域にさまざまな他律的影響を与えうる先進国からの商品に対抗して、地域コミュニティを自立的に維持していく視点が貫かれている。技術の具体的説明においては、そのメカニズムや原理にもふれており、技術者としての著者の面目が伺える。最後は、とにかく始めてみる事が重要と締めくくっているが、単位換算、用語解説、統計、関係連絡先等を示した付録もついており、実践のためのハンドブックという性格も持っている。

シュマッハーの中間技術の提唱と ITDG の創設以後 10 年余りを経過した 70 年代後半の時点で、適正技術にかかわる活動が、どのような展開を見せていたかを知ることができる、貴重な著作である。

(小川浩司)

[書誌データ]

Peter Douglas Dunn, *Appropriate Technology: Technology with a Human Face*, Schocken Books, 1979

[目次]

Foreword by G. McRobie

Introduction

1. An Introduction to Appropriate Technology
2. The State of the World - The Views of Economists and the Prediction of Futurologists
3. Intermediate Technology and Appropriate Technology
4. Food, Agriculture and Agricultural Engineering
5. Water and Health
6. Energy
7. Services - Medicine, Building, Transport
8. Small Industries in Rural Areas
9. Educations, Training, Research and Development
10. Getting Started